

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 ところとからだのしくみ I		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 棚橋 恭子	実務経験	病院、介護老人保健施設、准看護師とし従事し訪問看護ステーション、障害者支援施設、特別養護老人ホームに看護師として従事した。	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 1年・前期	(必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害や加齢によって生じた生活への支障に適切に対応するために、人間のところとからだの働きに関する基本的なしくみが説明できる。</p> <p>高齢者のところとからだの変化が一つひとつの生活行動とむすびついており、その基盤となっていることを説明できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業導入時、前回の復讐を行う。(口頭質問等)</p> <p>「解剖学」「生理学」「運動学」「心理学」をもとに人が生活するうえで身体がどのようににはたらくのか示し、学生に考えさせる。介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を学習し、そのうえで予防の視点を身につける。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・身体の構成と生きるしくみについて学び説明できる。 2・高齢者や身体上または精神上の障害のある人がより良い日常生活を営めるように生活支援に必要な知識と技術を学び実践できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. ところのしくみ①人間の欲求と自己実現 2. ところのしくみ②学習・記憶・思考・適応機制 3. からだの理解① 全身の筋肉 4. からだの理解② 全身の骨格 5. からだの理解③ 感覚器(眼球)	16. 移動に関するしくみ① ADLとIADL 17. 移動に関するしくみ② 基本的姿勢と歩行のしくみ 18. 移動に関するしくみ③ 廃用症候群 19. 移動に関するしくみ④ 転倒 20. 移動に関するしくみ⑤ 褥瘡		

<p>6. からだの理解③ 感覚器（耳、その他）</p> <p>7. からだの理解④ 呼吸器のしくみ</p> <p>8. からだの理解⑤ 消化器のしくみ</p> <p>9. からだの理解⑥ 泌尿器のしくみ</p> <p>10. からだの理解⑦ 生殖器と内分泌</p> <p>11. からだの理解⑧ 循環器のしくみ</p> <p>12. からだの理解⑨ 血液</p> <p>13. からだの理解⑩ 代謝のしくみ</p> <p>14. からだの理解⑪ バイタルサイン</p> <p>15. からだの理解⑫ 脳・神経・ホメオスタシス</p>	<p>21. 身じたくに関連したしくみ① 身じたくの行為の生理的意味</p> <p>22. 身じたくに関連したしくみ② 顔の構造・耳・鼻の構造と機能</p> <p>23. 身じたくに関連したしくみ③ 爪・毛髪構造と機能</p> <p>24. 身じたくに関連したしくみ④ 眼の構造と機能</p> <p>25. 身じたくに関連したしくみ⑤ 口腔の構造と機能</p> <p>26. 身じたくに関連したしくみ⑥ 口腔の構造と機能</p> <p>27. 入浴・清潔保持に関連したしくみ① 入浴・清潔に関連した基本知識</p> <p>28. 入浴・清潔保持に関連したしくみ② 清潔保持に関連したところと身体のしくみ</p> <p>29. 入浴・清潔保持に関連したしくみ③ 機能低下による入浴・清潔保持に及ぼす影響</p> <p>30. 入浴・清潔保持に関連したしくみ④ 変化の気づきと医療職との連携</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>最新・介護福祉士養成講座（中央法規出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11 「こころとからだのしくみ」 ・ プリント配布
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の授業に対しての取り組み方、提出物、参加態度などを含め評価する。(5%) ・ 小テスト(確認テスト含む) 確認テストの点数により算出する。(10%)

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 コミュニケーション技術 I		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 伊東 美子		実務経験	特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。			
[授業全体の内容の概要] コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)]			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護現場で必要とされる人間関係の形成のためのコミュニケーション技術を理解し、利用者にかかわる人たちと利用者の関係調整能力を習得できる。 ・ コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び、それに対する適切なコミュニケーションが実践できる。 ・ 文書 (記録・報告書など) を通して、介護実践に必要とされる情報伝達技術を習得する。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、展開過程 2. 介護におけるコミュニケーションの 展開過程 3. 介護におけるコミュニケーションの 対象 4. バイステックの7原則 5. ペーパータワー (魚沼の留学生が抜けたため、ペーパータワー実施) 6. 傾聴 7. 受容・共感 8. 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 9. 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本② 10. 目的別のコミュニケーション技術 11. 目的別のコミュニケーション技術② 12. ものの見方に変化を生み出す技術 13. 意思決定を支援するためのコミュニケーション 14. 集団におけるコミュニケーション技術 15. まとめ 			

<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」 (中央法規出版) ・プリント配布
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護の基本 I-1		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 阿部 紀男	実務経験	特別養護老人ホーム、市町村社会福祉協議会の職員として高齢者ケア全般に従事した。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉の基本となる理念を理解し、介護の歴史的な経過と我が国における介護の必要性、介護福祉士を取り巻く状況と社会福祉士及び介護福祉法、そして介護福祉士養成カリキュラムの変遷、について基礎となる知識を理論的に学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題と捉えられ、介護福祉士の専門性と倫理を理解し介護福祉士に求められる専門職としての態度を理解できる。具体的には「介護の成り立ち」「介護の概念の変遷」「介護福祉の基本理念」について述べることができる。また「介護福祉士を取り巻く状況」「社会福祉士及び介護福祉法」「介護福祉士養成カリキュラムの変遷」について述べることができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の成り立ち① 2. 介護の成り立ち② 3. 介護の概念の変遷① 4. 介護の概念の変遷② 5. 介護福祉の基本理念① 6. 介護福祉の基本理念② 7. 介護福祉の基本理念③ 8. 介護福祉士を取り巻く状況① 9. 介護福祉士を取り巻く状況② 10. 社会福祉士及び介護福祉士法① 11. 社会福祉士及び介護福祉士法② 12. 社会福祉士及び介護福祉士法③ 13. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷① 14. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷② 15. まとめ 			

[使用テキスト・参考文献]	「介護福祉士養成講座 介護の基本 I」(中央法規出版) 「新版介護基礎学－高齢者自立支援の理論と実際」(医歯薬出版)
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上で、筆記試験 60 点以上

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護過程 I — 1		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 伊東 美子		実務経験	特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護過程の意義・目的及び介護過程の展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例に通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等の他科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 介護過程の意義・目的が理解できる ② 介護過程の展開のプロセスが理解できる ③ 情報収集の目的や意義が理解できる ④ 利用者の状態に合わせた情報収集が実践できる ⑤ 情報収集の実践から、観察力や洞察力を身に付けることができる 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)</p> <p>コマ数：15 コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (授業の進め方やシラバスの説明) 介護過程とは何か 2. 共通項について 3. 共通項について (グループワーク) 4. 共通について (発表) 5. 介護過程の意義と目的 6. 介護過程の展開のプロセス 7. 情報収集の方法 8. 情報収集の実践 (演習①) サークルチャート 9. 情報収集の実践 (演習②) サークルチャート 10. 情報収集の実践 (演習③) サークルチャート 11. 実習に向けて (カンファレンスの意義) 12. 実習に向けて (カンファレンスの実践①) 13. 実習に向けて (カンファレンスの実践②) 14. 実習に向けて (カンファレンスの実践③) 15. 実習に向けて (まとめ) 			

[使用テキスト・参考文献]	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングで学ぶ「介護過程ワークブック」 (株式会社みらい) ・プリント配布
[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(10%) <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業に対しての取り組み方、提出物、参加態度などを含め評価する。 3. 小テスト (確認テスト含む) (10%) <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストの点数により算出する。

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護総合演習Ⅰ-1		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習)	
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年・前期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 介護実習に向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中には実践力を身に着けることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようにする。			
[授業全体の内容の概要] 介護実習の意義、実習Ⅰの位置づけを学習する。 介護事業所の概要、利用者の生活、介護福祉士としての役割について学習し、実習ごとの目的をきちんと踏まえたうえで自分の目標を明確にできるようにする。実習前に学内で学んだ知識・技術について再確認し実習に臨ませる。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①学んだ知識や技術などを統合して、実際場面に適用できる能力を身につける。 ②介護場面で遭遇した課題を解決するための思考、判断、行動力を身につける。 ③コミュニケーション技術などを活用し、様々な人との人間関係を築く能力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 実習についての説明(実習要綱を用いて2年間の実習の流れを確認) 2. 実習施設の概要(通所介護、小規模多機能型居宅介護、グループホーム) 3. 実習施設の概要(特養、老健、障害者支援施設) 4. 実習Ⅰ-1 Ⅰ-2の個人票作成 5. 実習Ⅰ-1 Ⅰ-2の計画書・心構え作成 6. 実習Ⅰ-1 Ⅰ-2の計画書・心構え作成 7. 実習Ⅰ-1 Ⅰ-2の計画書・心構え作成			

<p>8. 実習記録の書き方演習</p> <p>9. 実習記録の書き方演習</p> <p>10. 実習事前オリエンテーションの説明</p> <p>10. 実習の進め方・スケジュール作成</p> <p>11. 実習の進め方・スケジュール作成</p> <p>12. 実習前準備</p> <p>13. 実習前準備</p> <p>14. 実習前準備</p> <p>15. 実習前準備</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習」 プリント配布</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 査点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査点により算出する。</p> <p>2. 平常点(20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業に対しての取り組み方、参加態度などを含め評価する。(10%) ・提出課題において、期日を厳守し到達目標に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 障害の理解 I		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 石原 裕子	実務経験		
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。 ・ 医学的、心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できるようにする。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">1～5コマ 伊東 美子</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念(障害のとらえ方、ICIDHからICFへ、障害の定義) 2. 障害者福祉の基本理念(ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン・エンパワメント・ストレングス他) 3. 障害者福祉に関連する制度(障害者総合支援法・障害者差別解消法・障害者虐待防止法) 4. 障害者福祉制度と介護保険制度(障害者福祉制度と介護保険制度) 5. まとめ(ICFの考え方) <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">6～15コマ 石原 裕子</div> <ol style="list-style-type: none"> 6. 障害のある人の心理① 7. 障害のある人の心理② 8. 肢体不自由(運動機能障害)① 9. 肢体不自由(運動機能障害)② 10. 視覚障害 11. 聴覚・言語障害 12. 重複障害① 13. 重複障害② 			

<p>14. 内部障害①</p> <p>15. 内部障害②</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「最新 介護福祉士養成講座⑭ 障害の理解」 (中央法規出版)
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 人間の尊厳と自立		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 栄 千恵子	実務経験	神経内科クリニック、教育研究所等で心理カウンセラーとして勤務。	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性を知ることで、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。			
[授業全体の内容の概要] 人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。一つは福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について説明することができる。 ・介護場面における倫理的課題について課題解決に向けた考察ができる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 人間の尊厳と利用者主体 2. 人権思想の潮流とその具現化 3. 人権や尊厳に関する日本の諸規定① 4. 人権や尊厳に関する日本の諸規定② 5. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 (人は人をどう援助しようとしてきたか) 6. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 (戦後の新たな福祉のあり方への模索) 7. 人権尊重と権利擁護① 8. 人権尊重と権利擁護② 9. まとめ 10. 自立の概念の多様性 11. 自立とは 12. 介護を必要とする人々の自立と自立支援① 13. 介護を必要とする人々の自立と自立支援② 14. 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		・「最新 介護福祉士養成講座① 人間の理解」 (中央法規出版)	

[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none">・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none">・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 生活レクリエーション援助 I		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 須藤 ひろみ	実務経験	専門学校レクリエーション講師、長岡市介護予防運動指導員として、レクリエーションに従事している。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・介護実践におけるレクリエーション活動の意義を知り、実践に向けた計画を立てることができるようになる。 [授業全体の内容の概要] ・介護実践におけるレクリエーション活動の意義を学び、実践に向けた計画を立てることができるように授業の中で学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・レクリエーション活動の社会的意義を理解し、支援活動の必要性を考えられる。 ・レクリエーション事業の計画・実践・評価についての力を養うことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. レクリエーション概論① 2. レクリエーション概論② 3. 楽しさと心の元気づくりの理論① 4. 楽しさと心の元気づくりの理論② 5. 楽しさと心の元気づくりの理論③ 6. レクリエーション支援の議論① 7. レクリエーション支援の議論② 8. レクリエーション支援の議論③ 9. レクリエーション支援の議論④ 10. レクリエーション支援の方法① 11. レクリエーション支援の方法② 12. レクリエーション支援の方法③ 13. レクリエーション支援の方法④ 14. レクリエーション支援の方法⑤ 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		・「楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法」 (日本レクリエーション協会)	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。	

	<p>2. 平常点(15%)</p> <ul style="list-style-type: none">• 授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)• 提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
--	--

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 生活支援技術 I - 1		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 伊東 美子		実務経験	特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・前期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できるように説明ができ、実施ができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として実務につくための基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護職と医療行為 2. 生活支援における介護予防① 3. 生活支援における介護予防② 4. 生活支援とリハビリテーション① 5. 生活支援とリハビリテーション② 6. 生活支援と福祉用具の活用のため福祉機器を用いた生活の拡大① 7. 生活支援と福祉用具の活用のため福祉機器を用いた生活の拡大② 8. 生活支援と福祉用具の活用① 9. 生活支援と福祉用具の活用② 10. 生活支援における居住環境の意義と目的① 11. 生活支援における居住環境の意義と目的② 12. 安心して快適な生活の場づくり① 13. 安心して快適な生活の場づくり② 14. 他職種の役割と協働 15. まとめ 			
[使用テキスト・参考文献]		・「介護福祉士養成講座 生活支援技術 I」 (中央法規出版)	

[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none">・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。1. 査査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none">・ 授業への参加状況では発言回数複数回である点を評価する。(5%)・ 提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。
---------------	---

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 生活支援技術Ⅱ－1		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 伊東 美子		実務経験 特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業の回数 40回	時間数(単位数) 80時間(3単位)	配当学年・時期 1年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴、清潔保持、排泄、家事、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識や技術を学ぶ。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ① 対象者の能力を活用・発揮し、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識が理解できる ② 生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識や技術を習得できるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. オリエンテーション 2. 睡眠における介護技術(ベッドメイキング) 3. 睡眠における介護技術(ベッドメイキング) 4. 睡眠における介護技術(ベッドメイキング) 5. ベッドメイキング確認テスト 6. 自立に向けた移動の意義(姿勢の名称) 7. 自立に向けた移動の意義(起き上がり) 8. 自立に向けた移動の意義(車いすの操作) 9. 自立に向けた移動の意義(車いすの操作) 10. 自立に向けた移動の意義(歩行介助) 11. 自立に向けた移動の意義(歩行介助) 12. 移動動作に関する確認テスト 13. 身じたくの介助(衣類の着脱)前開き 14. 身じたくの介助(衣類の着脱)前開き 15. 身じたくの介助(衣類の着脱)かぶり 16. 身じたくの介助(衣類の着脱)かぶり 17. 着脱介助確認テスト 18. 自立に向けた入浴・清潔保持 19. 自立に向けた入浴・清潔保持 20. 自立に向けた入浴・清潔保持		21. 自立に向けた入浴・清潔保持 22. 入浴確認テスト 入浴実習まとめ 23. 自立に向けた食事介助(食事の意義) 24. 自立に向けた食事介助(食事介助の実際) 25. 自立に向けた食事介助(食事介助の実際) 26. 自立に向けた排泄介助(意義・目的) 27. 自立に向けた排泄介助(ポータブルトイレ) 28. 自立に向けた排泄介助(ポータブルトイレ) 29. 自立に向けた排泄介助(トイレ) 30. 自立に向けた排泄介助(パッド交換) 31. 自立に向けた排泄介助(尿器・差し込み便器) 32. おむつでの排泄介助 33. おむつでの排泄介助 34. 排泄介助確認テスト(おむつ) 35. 排泄介助確認テスト(おむつ) 36. 頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応 37. 前期分復習 38. 前期分復習 39. 前期分復習 40. 前期分復習	

[使用テキスト・参考文献]	<p>最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II 中央法規出版</p>
[単位認定の方法及び基準]	<p>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する (10%)。

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 認知症の理解 I		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 阿部 紀男	実務経験	特別養護老人ホーム、市町村社会福祉協議会の職員として高齢者ケア全般に従事した。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解し、基礎となる知識を理論的に学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>認知症ケアの歴史、理念を含む社会的環境について理解できる。具体的には「認知症とは何か、認知症の特徴」「認知症の人の心理」「認知症の症状と生活障害」について述べるができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアの歴史 2. 認知症高齢者の現状 3. 認知症に関する施策 4. 医学的側面から見た認知症の基礎① 5. 医学的側面から見た認知症の基礎② 6. 認知症による障害① 7. 認知症による障害② 8. 認知症の代表的な原因疾患① 9. 認知症の代表的な原因疾患② 10. 認知症の検査・治療 11. 認知症に伴う心身の変化と日常生活① 12. 認知症に伴う心身の変化と日常生活② 13. 認知症に伴う心身の変化と日常生活③ 14. 認知症に伴う心身の変化と日常生活④ 15. まとめ 			
[使用テキスト・参考文献]		「介護福祉士養成講座 認知症の理解」(中央法規出版) 「新版介護基礎学－高齢者自立支援の理論と実際」(医歯薬出版)	

[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上で、筆記試験 60 点以上
---------------	----------------------------